

塘研究室現地調査報告



10月28日と11月10日に裏磐梯地域の池沼及びその周辺で底生動物相と陸生昆虫相調査を実施しました。10月28日の調査者は塘研究室の4年生、3年生、教員の4名、11月10日は塘研究室の4年生と教員の2名でした。なお、10月28日は塘研究室の大学院生が長瀬川（川上温泉付近、東商橋下）でオオシマトビケラの生息確認調査を実施しました。

10月28日は桧原湖畔のニチレイ社有地内の3つの池沼にて、底生動物相調査と、水温やpH・EC測定、池沼底の堆積物調査を実施しました。また、池沼周辺では陸生の昆虫類（主に越冬のために石下や枯木中に入り込んでいるオサムシ・ゴミムシ類）の調査も実施しました。

11月10日は桧原湖畔のニチレイ社有地内の3つの池沼に設置して連続水温を測定しているデータ・ロガーのデータを回収しました。また、前回の調査に引き続き、池沼底の堆積物調査を実施しました。次に、裏磐梯スキー場入口付近にある無名の沼の探索（磐梯山に向かって右側奥にあります）、もうせん沼の写真撮影、緑沼と呼ばれる沼の位置確認を行いました。無名の池の周囲にはオナシカワゲラの仲間やトビケラの仲間の成虫が飛んでいました（幼虫がこの池に生息しているものと思われます）。さらに、五色沼自然探勝路南側にある3つの無名の池のうち、最も探勝路に近い池にて、底生動物相調査および水質（水温、pHとEC）測定を実施しました。この池はとところどころで強い硫黄臭がしましたが、pHは中性（7.2程度）で、フタバカゲロウやトンボ類をはじめとする数種類の底生動物が確認されました。また、イモリも生息していました。